

# 市町村長及び市町村教育長への 意見照会結果について

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課

# 実施概要

- 目的 提言の取りまとめにあたり、県内自治体の意見を参考とするため、第4回検討会時点での提言まとめ（案）に対する意見を伺うもの。
- 期間 令和7年（2025年）7月8日（火）～7月29日（火）
- 方法 WEB調査
- 対象 県内の市町村長及び市町村教育長
- 回答数 84 【内訳】市町村長：40 市町村教育長：44  
※回答率：93.3%  
※首長または教育長が取りまとめて1つの回答としている市町村があるため、100%とはならない

# 結果概要

■ 検討会の議論の方向性に概ね賛同する（特段の意見はない）

■ 検討会の議論の方向性に意見がある

## ① 魅力ある学校づくりに向けた取組

地域（地元自治体・企業等）との連携・協働の推進

73% 27%

時代に対応した質の高い学びの推進

82% 18%

多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進

83% 17%

学びを支える教育環境の整備

79% 21%

## ② 人口減少を見据えた教育環境整備

募集定員の見直しの考え方

62% 38%

課程・学科のあり方

79% 21%

通学区域・学区外枠の考え方

73% 27%

※方向性に意見がある場合は、記述形式により回答（賛同意見等も含まれている）

# 主な意見

## (1) 地域（地元自治体・企業等）との連携・協働の推進について

### ●高校魅力化コンソーシアム構築や魅力化コーディネーターの継続性

※意見総数 23

- ・地元自治体として協働体制の構築に尽力したいが、マンパワーや資金は十分でないため、モデル事業終了後も県の積極的な関与や財政的支援をお願いしたい。
- ・地域と小中学校をつなぐ「地域学校協働活動推進員」との連携を図っていきたい。

### ●地域と連携した高校の魅力化・キャリア教育の充実

- ・地域の次世代の担い手育成に繋がる教育システムや体制づくりが必要。
- ・連携先を探す主体を明らかにすべき。県立高校の案件を地元自治体に任せず、座組を県教委主体で示すべき。
- ・地域によって連携先となる企業の数や種類、質等が異なるため、県レベルでの調整が必要ではないか。

### ●地方創生と高校の役割

- ・高校は地域に欠かせない存在である。一方で、域外に出て行く者を育てるものではないため、それぞれの地域の地方創生と高校の魅力化の方向性の連動が重要。

### ●小中学校との連携・情報発信

- ・小中学生や保護者への情報発信は重要。高校の教員が地元の小中学校へ乗り入れ授業を実施すれば、高校のアピールや教員不足解消にもつながるのではないか。

### ●探究的な学びの充実、課題解決・課題設定能力の育成

- ・すべての学校で子どもたちに質の高い学びが提供されるよう、「探究的な学び」の更なる充実をお願いしたい。
- ・「探究的な学び」によって、地域と連携した体験をもとに子どもたちが社会との接点を見出すとともに、将来の自己実現に繋がる。
- ・「課題解決能力」のみならず、「課題設定能力」の育成も推進が必要。

### ●高大連携・高大接続

- ・地域の産業人材育成の面においても大学との連携・接続は大変有効な施策であり、大いに推進してほしい。
- ・大学がない地域でも高校生の早い段階から県内の大学と連携した学びが充実すれば、高校生の学ぶ意欲や地元人材確保に繋がる。
- ・町と地元の県立高校の連携協定において「地域や小中学校、大学との協働による教育の推進」を掲げており、施策案にあるとおり取組を推進してほしい。

### ●高校間連携

- ・離れた地域の高校間の連携のみならず、同じ地域内の高校の連携強化も必要。

### ●柔軟なカリキュラムの必要性

- ・多様な生徒のキャリア形成を支えるため、学際的・教科横断的な学びを推進すべき。
- ・多様な授業選択により、一人一人が将来の夢を発見する機会を創出していくべき。

### ●通信制高校の設置と環境整備

- ・子どもたちを取り巻く環境の変化へのサポートや多様化するニーズへの受け皿として全日制の小規模校や、定時制、通信制が果たす役割は大きく、新たな学びの場づくりも含めて検討が必要。
- ・不登校経験者等への対応として、県立の通信制高校を県内に数校設置すべきでは。

### ●特別支援教育の充実

- ・通級指導教室の更なる設置を期待する。
- ・小中学校の特別支援学級で学んだ生徒の進路が限られているため、特別支援教育支援員の配置により、地元の高校も進路選択の一つになるようにしてほしい。

### ●部活動による魅力向上

- ・地域ぐるみで部活動への支援活動が行われており、スポーツコースとの相乗効果による魅力化向上を期待する。

### ●施設の充実・寮の整備や通学支援

- ・ 県立高校の施設の老朽化は深刻であり、魅力化のためには施設の充実に早急に取り組む必要がある。自治体や住民等が相互に利用可能な施設整備をお願いしたい。
- ・ 複数の校舎を1つにまとめて整備改修を進めてはどうか。
- ・ 生徒の住まいの確保は非常に重要であり、学生寮設置や寮監配置をお願いしたい。
- ・ 広域からの入学を想定したスクールバスの運行等の通学支援をお願いしたい。

### ●教職員の人材確保・育成等と働き方改革

- ・ 学びの充実のためには教職員の確保、育成、働き方改革の推進が必須。
- ・ カリキュラムの充実のため、教職員の柔軟な配置をお願いしたい。
- ・ 多様な学びのニーズに応えるため、専門的な知識や技術、経験等のある企業人等の人材による教育を可能にする柔軟な制度が必要。
- ・ 県立高校がおかれている危機的な状況について、教職員自身の意識が希薄。教職員は教育課程による教育活動を実践に行うだけでは役割として足りない時代になっているという共通認識の醸成と実行を同時進行で進めることが急務。

### ●教育DXの推進

- ・ 個別最適な学びの実現のため、ICT環境整備により教育DXを進めてほしい。

### ●学級減について

- ・熊本市内と熊本市外では状況が異なるため、画一的な定員減は避けるべき。
- ・各地域における学科構成や学校の特色にも配慮した判断が必要。
- ・定員割れによる学級減は、地域格差を助長するのではないか。
- ・特に高校が少ない地域については、少人数学級編制を導入するなど一律に学級減を進めないよう、慎重に対応をお願いしたい。

### ●統廃合基準・地域魅力化特例校について

- ・「できる限り地域に高校を残す」というコンセプトに反しないような制度設計を。
- ・生徒数ではなく通学面を考慮し、地域内に学校を存続させてほしい。
- ・統廃合をしなくても、ICTの活用により存続も可能ではないか。
- ・地域魅力化特例校の認定基準が不明瞭。事前に明確に示してほしい。
- ・特例校の位置づけの具体的な検討にあたっては、地域の意見を取り入れてほしい。
- ・地域の実情に応じた統廃合の計画を検討する時期に来ているのではないか。

### ●私立高校との関係、授業料無償化について

- ・授業料無償化の動きがある中、私立高校も含めた県全体での議論が必要。
- ・私立高校としっかり足並みを揃えてほしい。

# 主な意見

## (6) 課程・学科のあり方について

※意見総数 18

### ●普通科

- ・普通科は地域の生徒の学びの受け皿として必要であり、町外の生徒にとっても魅力的な特色ある学科として設置を継続してほしい。
- ・特色が類似する学校が近隣に配置されないよう配慮してほしい。

### ●専門学科

- ・地域の人材育成の観点から、農業、林業に直結した学科は今後も残してほしい。
- ・専門学科の大学科への統合に際しては、統合だけが目的とならないよう、教育の質が維持、向上されるようしっかり考えて実施してほしい。
- ・学びの幅の広がりが可能となるよう、専門教育においても学際的な学びを可能とする学科の設置検討が必要。

### ●総合学科

- ・多様なニーズに対応できる高校として、総合学科の設置検討も必要。

### ●発展的統合の検討

- ・大項目として記載すべきではないか。(統廃合の計画を検討する時期に来ている。)

### ●定時制・通信制

- ・多様なニーズに対応するため、定時制の維持や通信制の設置検討が必要。

### ●学区制を維持すべき

- ・学区や学区外枠の拡大は、熊本市内への一極集中を助長し、地域の高校の定員割れが進む可能性があるため、学区制の維持が必要。
- ・熊本市内への流入を防ぐため、学区外枠を13%から8%に戻すべき。
- ・熊本市の高校に熊本市外からの流入が増えると、熊本市内の中学生の進学できないケースが増加することも想定されるため、慎重な検討が必要。

### ●全県一区にすべき

- ・学区制は選択の自由を制限しており、教育機会の公平性を損なうおそれがある。
- ・学区制によって希望学区への転居が発生し、地域の人口流出につながっている。
- ・制度による「保護」ではなく、魅力によって選ばれる高校づくりが理想。
- ・魅力化の取組が進んだ段階で学区制度の撤廃など、丁寧かつ中長期的な検討の継続が必要。

### ●再編統合に対する懸念

- ・地域の高校の統廃合は、人口減少や地域衰退に直結するため、慎重な判断を。
- ・地域に根差した学校づくりによって高校を存続させることが地方創生につながる。
- ・急速に人口減少が進む地域では、「存続ありき」でも「統廃合ありき」でもなく、子どもたちの教育を保障する観点から、地域全体で高校教育の方向性を議論する協議体の設置に早急に着手すべき。

### ●高校授業料無償化による影響に対する懸念

- ・無償化によって地元の県立高校への入学者がさらに減少することが懸念される。
- ・募集定員だけでなく、入試日程等も含め、私立高校も交えた県内の高校教育に関する全体的な議論が必要。併願制の導入による定員割れの解消にも期待。

### ●熊本市内一極集中の是正

- ・一極集中により県全体の学びのバランスが崩れており、分散型の施策が必要。
- ・各地域の拠点校の魅力化や通学支援によって進学の実選択肢を広げるべき。
- ・都市部の学級数削減と郡部の魅力づくりを併せて進める方針が必要。

### ●その他

- ・今後の社会の変化に対応できるよう、取組の中間評価や見直し体制を設けるべき。